

平成 22 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006 ～ 2009

課題番号：18202029

研究課題名（和文） 人種の表象と表現をめぐる融合研究

研究課題名（英文） An Integrative Study of Representations and Expressions of Race

研究代表者 竹沢泰子

（ Yasuko Takezawa ）

京都大学人文科学研究所・教授

研究者番号：70227015

研究概要

本研究は、人種の生物学的概念としての有効性が否定された後も、現実の日常生活において人種の社会的リアリティが強固に存在するのはなぜかという問題提起から、人種の表象と表現に着目した。共同研究は、①ジェンダー、階級、人種との交錯、②「見えない人種」、③科学言説、④現代の抵抗といったユニットを構築した上で進め、分野横断的、地域横断的なアプローチを試みた。

This study focused on representations and expressions of race in order to understand why social reality of race still exists in our daily lives even years after the biological reality of race was denied. The project consisted of four units: ① the intersection of gender, class and race; ② “invisible races”; ③ scientific discourse; ④ contemporary resistance. It took the cross-cultural and cross-disciplinary approach

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	9,000,000	2,700,000	11,700,000
2007 年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
2008 年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
2009 年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
総計	36,100,000	10,830,000	46,930,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：人種 人種差別 表象 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

2004 年 4 月から 2005 年 5 月まで（2005 年 4

月から 2006 年 6 月まで代表者は在外研究）、
人種の表象と表現について準備的な研究会

を行っていた。

2. 研究の目的

生物学的概念としての「人種」の有効性が否定されてから久しいにもかかわらず、21世紀に入っても人種がかくも強固に社会的に存在するのはなぜかという問題提起から、そのような人種の社会における実在性、すなわち社会的リアリティを理解する手がかりは、人種の表象と表現にあると本研究では考え、表象と表現に関する分野横断的、地域横断的なアプローチを試みることを目的とした。

3. 研究の方法

近年の欧米の研究動向を参照し、表象の現実歪曲性よりも、表象の産出されるプロセスを注視した。またマイノリティの側がステレオタイプ的な表象を解体すべく主体的に人種の表現を取るという戦略にも注目し、新しい抵抗運動についてもフィールドワークなどの調査を行った。こうした人種の表象と表現をめぐる動態を、支配と消費文化の生産・再生産の側面にも注意を払いつつ、マスメディア、絵画、映画、広告、社会的言説、現代アート、またゲノムなどを含む科学言説を取り上げることで、学際的、多元的にすることを目指した。

共同研究は、①ジェンダー、階級、人種との交錯、②「見えない人種」、③科学言説、④現代の抵抗といったユニットを構築した上で進め、終了時には全体的な理論的枠組みを研究代表者が提示した。

4. 研究成果

本研究は、当初申請書に記述した以上の成果を得ることが出来た。京都大学国際シンポジウムへの採択・実施、報告書の刊行、岩波書店からの学術書刊行、京都大学学術出版会からの英文学術書の刊行予定など、本研究が高く評価されたため、当初の計画以上の成果をあげることができた。このほか、『人文学報』の特集号企画、YouTubeによるシンポジウムの動画発信、HPによる研究成果公開、京

都大学学部生向けのリレー講義などもすべて計画以上の進展である。詳細は以下の通り。

(1) 京都大学国際シンポジウム「変化する人種イメージ—表象から考える」は、幅広い多角的・学際的な視点から、第一線の研究成果を社会に向けて発信することができた。また共同討議によって国内外の研究者の対話・ネットワークの構築、拡大に大きく貢献した。新聞などでも大きく取り上げられ、一般社会への学術的成果への関心を喚起することもできた。

同シンポジウムの報告書を2009年3月に刊行した。竹沢泰子編『変化する人種イメージ—表象から考える』京都大学。

(2) 学術書として2009年5月に『人種の表象と社会的リアリティ』（岩波書店）を刊行した。多数の研究分担者・協力者が執筆し、人種と表象をめぐる新しい理論的枠組みを提言した。成果を出版することにより、長期的な学術的貢献を図った。

(3) 英文学術書として Yasuko Takezawa ed. 『Representations of Race in Asia』（Kyoto University Press）を2011年3月に刊行予定である。2010年度科学研究費の研究成果刊行の助成金に採択された。

(4) 京都大学人文科学研究所刊行の『人文学報』100号において「特集 差異の表象」を企画し、若手研究者を中心に研究成果を発表する予定である。2010年夏刊行予定。

(5) その他

YouTubeによるシンポジウムの動画発信、HPでの研究成果発表。

<http://kyodo.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~race/index.htm>

京都大学学部生向けのリレー講義など

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[論文 計 269 件]

Yasuko Takezawa, 2010, "Race in Asia"; *Encyclopedia Britannica's Guide to Black History*. (ウェブ上に公開) (査読あり)

Yasuko Takezawa, 2010, "Japan's Minority Peoples," *Encyclopedia Britannica's Guide to Black History*. (ウェブ上に公開) (査読あり)

竹沢泰子, 2009、書評 米山裕・河原典史著『日系人の経験と国際移動—在外日本人・移民の近現代史』、移民研究年報 14 号、pp.115-118。(査読あり)

竹沢泰子, 2009、序—多文化共生の現状と課題、『文化人類学』、74 巻 1 号別冊、pp.86-95。(査読あり)

竹沢泰子, 2009、アメリカ人類学にみる進化論と人間の『差異』太平洋を横断した人種論、『現代思想』、vol.37-5、pp.202-220。(査読なし)

石橋純, 2008、「叛乱の記憶、路上の政治：チャベスの革命とベネズエラ民衆」、『現代思想』36 号、pp.228-245。(査読なし)

加藤和人・松田健太郎・森田華子, 2008、「科学コミュニケーション—その変遷と多様性を考える」『蛋白質核酸酵素』vol.52 no.15, 1998-2005。(査読あり)

加藤和人・高橋貴哲, 2008、「ゲノム医療の発展に向けた研究体制と市民との対話に関する考察—全ゲノム関連解析とデータ共有を例にして—」、『医学のあゆみ』Vol.225 No.9, 891-894。(査読あり)

Kano, K., Yahata, S., Muroi, K., Kawakami, M., Tomoda, M., Miyaki, K., Nakayama, T. Kosugi, S., Kato, K., 2008, "Multimedia presentations on the human genome: Implementation and assessment of a

teaching program for the introduction to genome science using a poster and animations" *Biochemistry and Molecular Biology Education (Refereed Journal)*, Vol.36 No.6, 395-401. (査読あり)

川島浩平, 2008、「『ダーウィنز・アスリート』のその後 10 年—アメリカにおける人種とスポーツの間」『スポーツ社会学研究』16 号、pp.5-10。(査読あり)

石橋純, 2007 "Mlticulturalismo y Racismo en la Epoca de Chávez ---Etnogénesis afrovenezolana en el proceso bolivariano", *Humania del Sur*. No.3. pp.25-41. (査読あり)

HUMAN GENOME ORGANISATION ETHICS COMMITTEE (including Kato, K.) 2007 "HUGO Statement on Pharmacogenomics (PGx): Solidarity, Equity and Governance" *Genomics, Society and Policy (Refereed Journal)*, Vol.3 No.1, 44-47. (査読あり)

加藤和人, 2007、「パーソナルゲノム時代の研究倫理—国際動向と日本の課題」『実験医学』vol.27 No.12 (増刊号)、2016-2021。(査読あり)

田辺明生, 2007, "Toward Vernacular Democracy: Moral Society and Post-postcolonial Transformation in Rural Orissa, India" *American Ethnologist* 34 (3): 558-574. (査読あり)

田辺明生, 2006 "Recast(e)ing Identity: Transformation of Inter-Caste Relationships in Post-Colonial Rural Orissa" *Modern Asian Studies* 40(3): 761-796. (査読あり)

田辺明生, 2006 「デモクラシーと生モラル政治—中間集団の現代的可能性に関する一考察」『文化人類学』第 71 巻 1 号

pp94-118。(査読あり)

(他は省略)

[書籍 計 76 件]

田辺明生、2010、『カーストと平等性—インド社会の歴史人類学』東京大学出版会。

黒川みどり・藤野豊編、2009、『近現代部落史』有志舎。

黒川みどり編、2009、『部落史研究からの発信 第2巻近代編』解放出版社。

竹沢泰子、2009、『第12回京都大学国際シンポジウム報告書変化する人種イメージ—表象から考える』。

竹沢泰子編、2009 『人種の表象と社会的リアリティ』岩波書店。

井野瀬久美恵、2007、『大英帝国という経験』講談社(興亡の世界史シリーズ・第16巻)。

黒川みどり編、2007、『〈眼差される者〉の近代—部落民・都市下層・ハンセン病・エスニシティ—』解放出版社。

小関隆編、2007、『記念日の創造』人文書院。

石橋純、2006 『太鼓歌に耳をかせるカリブの港町の「黒人」文化運動とベネズエラ民主政治』松籟社。

黒川みどり・中尾健次、2006、『続・人物でつづる被差別民の歴史』解放出版社。

小関隆、2006、『プリムローズ・リーグの時代：世紀転換期イギリスの保守主義』岩波書店。

[その他]

研究会 HP

<http://kyodo.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~race/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹沢泰子 (Yasuko Takezawa)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70227015

(2) 研究分担者

()

該当者なし

(3) 連携研究者

田辺明生 (Akio Tanabe)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究
研究科・教授

(H18-H19：研究分担者)

研究者番号：30262215

小関隆 (Takashi Koseki)

京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：10240748

(H18-H19：研究分担者)

高階絵里加 (Erika Takashina)

京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：80324698

(H18-H19：研究分担者)

Lee Sung Yup

京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：50378882

(H18-H19：研究分担者)

加藤和人 (Kazuto Kato)

京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：10202011

(H18-H19：研究分担者)

藤原辰史 (Tatsushi Fujihara)

東京大学・農学生命科学研究科・講師
研究者番号：00362406

(H18-H19：研究分担者)

スチュアート (本多) ヘンリ (俊和)
放送大学・教育学部・教授

研究者番号：50187788

(H18-H19：研究分担者)

黒川みどり (Midori Kurokawa)

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号：60283321

(H18-H19：研究分担者)

井野瀬久美恵 (Kumie Inose)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70203271

(H18-H19：研究分担者)

川島浩平 (Kouhei Kawashima)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：60245446

(H18-H19：研究分担者)

北原恵 (Megumi Kitahara)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：30340904

(H18-H19：研究分担者)

貴堂嘉之 (Yoshiyuki Kidou)

一橋大学・社会学研究科・准教授

研究者番号：70262095

(H18-H19：研究分担者)

坂野徹 (Toru Sakano)

日本大学・経済学部・准教授

研究者番号：70409142

(H18-H19：研究分担者)

石橋純 (Jun Ishibashi)

東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：70323318

(H18-H19：研究分担者)